

## News Release

---



2020年10月14日

関係各位

株式会社スリー・ディー・マトリックス

### 欧州における「PuraStat」のウェビナー 開催のお知らせ

2020年10月11日からバーチャルに開催された欧州消化器病週間（UEGW: United European Gastroenterology Week）に先立つ形で、当社主催のPuraStatに特化したウェビナー“PuraStat Webinar - Looking beyond haemostasis”を開催いたしました。今年度は、コロナ禍の影響もありウェビナーの形式を取りましたが、全世界から609名の参加登録があり、うち多数にご参加いただき、460名の方に今後さらなる情報をご提供させていただくことになりました。これは、昨年の同時期に開催したPuraStatイベントの参加者数130名を大きく上回っており、PuraStatに対する関心の高まりを強く反映していると考えております。

今回は、内視鏡医が抱える大きな課題である、ESD/EMR等の切除手技に伴う出血のコントロールと、後出血の予防に対するPuraStatの効果・実績はもちろん、潰瘍性出血等の自発性出血や、放射線性直腸炎への処置に対してPuraStatが提供できる価値の可能性についても主要国のKOLが経験に基づいて語っていただきました。

ウェビナーのモデレーターにはHelmut Neumann教授（Interventional Endoscopy Center, University of Mainz, Germany）、Pradeep Bhandari教授（Queen Alexandra Hospital, Portsmouth, UK）の両名に勤めていただくとともに自身のご経験を共有いただきました。また、Gianpiero Manes先生（Garbagnate Milanese, Milan, Italy）、John Hancock先生（North Tees and Hartlepool NHS Foundation Trust, UK）にはそれぞれ潰瘍性出血等の自発性出血へのPuraStatの使用、放射線性直腸炎への処置におけるPuraStatの可能性について語っていただきました。

まず、Helmut Neumann 教授からは、PuraStat の自己組織化ペプチドの特性を生かした基本的な作用機序の説明から始まり、胃ろうを建設、十二指腸乳頭部の切除、大腸吻合時等の止血への PuraStat の使用実例をお示しいただきました。いずれも、クリップ等既存の方法が適用しにくい事例であり、PuraStat の透明性、安定性、安全性、簡易性、そして強い止血力が奏功しているという優れた事例でした。

Pradeep Bhandari 教授からは、PuraStat が焼灼を優位に減らすことができることを示したご自身の RCT（無作為化臨床試験）の結果を共有いただきました。この試験は 101 名の患者を半分に分け、片方は焼灼による止血を、もう一方は PuraStat を使用してどの程度焼灼数が減るかを見るものであり、結果は後出血率を増やすことなく焼灼数を半減させることができるという画期的なものでした。

Gianpiero Manes 先生からは、消化性潰瘍等の自発性出血のケースでは出血の原因や出血の位置によってはクリップ等では止血が困難な場合も多いため、これらのケースで PuraStat を使用する可能性についての考察が示されました。これらの出血には粉末状の既存製品も存在しますが、緊急避難的な目的で用いられるもので一旦使用してしまうと、それ以上の処置が不可能になるという不便な点が存在します。このようなケースに PuraStat を使用することで、十分な止血を実現しながら追加の処置を行うことができます。実際、Manes 先生の病院において自発性出血のケースの 91%は PuraStat を用いることによって十分な止血を達成することができたと述べられました。弊社では、このデータは今後の PuraStat の使用範囲を拡大するという意味において非常に大きな意義があると考えております。

最後に John Hancock 先生からは放射線性直腸炎の患者への症状を緩和する手段としての PuraStat 使用の可能性について触れられました。先生はこれまで 14 名の放射線性直腸炎の患者に PuraStat を月に 1-2 回 2.5-5mL を塗布したことがあり、うち 13 名で 3-5 ヶ月程度の期間で大きく症状が改善したとのことです。実際に時間軸に沿って症状が明らかに緩和されていくケースをビデオの記録を用いて 3 例共有していただきましたが、これには多くのポジティブなコメントが寄せられました。現在、放射線性直腸炎の治療目的での PuraStat の使用は適用外となっておりますが、将来的な適用拡大を目指していく大きな指針となりました。

本ウェビナーを通じて自由に質問を寄せられる仕組みを運用しておりましたが、後出血の効果的な予防、潰瘍性出血の非侵襲的処置、RP の非侵襲的処置については、現在選択肢が限定的であり、参加者のご関心が高いトピックということもあり、特に数多くの質問が寄せられました。いずれも質問されている方の日常的な悩みに基づいた具体的なものであり、PuraStat への期待の高さが感じられるものでありました。

弊社の試算では欧州での市場規模はそれぞれ、内視鏡下の切除術への止血：約 130 億円、自発性出血への止血：約 120 億円、放射線性直腸炎への処置：約 100 億円程度存在していると見ており、今後これらの領域において大きく成長していくことを目指します。今後、この機会を通じて PuraStat にご興味を持たれた内視鏡医の方々に対して、積極的に早期に試用機会をご提供していくことで、ユーザー基盤の大幅な拡大を目指して活動するとともに、日本においても可及的速やかに欧州同様の事業立上げを行います。

以上

(参考： ウェビナーの招待状)

**3D MATRIX**  
MEDICAL TECHNOLOGY

Partnered with  
**FUJIFILM**

Join our webinar

# PuraStat®: Looking Beyond Haemostasis



Thursday 1st October 2020 | 18:30 - 20:00 CEST

## Moderators



**Prof. Helmut Neumann**  
*Interventional Endoscopy Center,  
University of Mainz*



**Prof. Pradeep Bhandari**  
*Queen Alexandra Hospital, Portsmouth*

## Agenda

Opening remarks by Prof. Helmut Neumann



**Improving Outcomes of Endoscopic Resection**  
*Prof. Pradeep Bhandari | Queen Alexandra Hospital, Portsmouth*

FUJIFILM Europe Video



**Use of PuraStat® as Rescue Therapy for Refractory Acute GI Bleeding**  
*Dr. Gianpiero Manes | Garbagnate Milanese, Milan*




**PuraStat®'s Potential in Radiation Proctopathy**  
*Dr. John Hancock | North Tees and Hartlepool NHS Foundation Trust, UK*


Closing remarks by Prof. Helmut Neumann & Prof. Pradeep Bhandari




MT.GS.002.EU.EN.v1.2020.09.24

**CLICK HERE TO  
REGISTER YOUR INTEREST**



 [www.3dmatrix.com](http://www.3dmatrix.com)

 [infoeu@puramatrix.com](mailto:infoeu@puramatrix.com)

Connect with us:   

本件に関するお問い合わせ先  
株式会社スリー・ディー・マトリックス  
管理部

Tel : 03 - 3511 - 3440 (代表)